



# 南極観測隊経験者に インタビュー



20次・28次・38次越冬、52次夏

やまのうち たかし

## 山内恭さん

国立極地研究所および総合研究大学院大学名誉教授  
“Polar Science” 編集室およびアーカイブ室  
(2016年7月現在)



### 南極では、どんな研究やお仕事をしたのですか？

20次：極域気水圏観測計画（POLEX-South）にて、カタバ風帯のみずほ基地で、30 mタワーを建て、境界層、熱・放射収支観測。大陸氷床上積雪面の放射収支の特徴、大気放射特性を明らかにした。28次：南極における気候変動に関する総合研究（ACR）にて、スーパーミニコンを昭和基地に導入。人工衛星 OAA/ AVHRR データの受信と現地処理を行い、雪氷面上の雲導出アルゴリズムを開発、併せて衛星データと比較すべく地上放射収支の観測。38次：南極大気・物質循環観測にて、ドームふじ基地にて大気総合観測を計画、自らは昭和基地でエアロゾル観測、ドームふじ冬明け補給旅行に参加、越冬隊長を務める。



20次隊で初めてのみずほ基地での越冬中の日射観測風景（太陽を隠して日射系の検定）



### 初めて南極におり立ったときの感想をおしえてください。

昭和基地を知らずにいきなり大陸（S16 拠点）に連れていかれ、初体験で雪上車を運転、大きな鉄ゾリ他重い荷物を牽引、自由にカジを切れないなど軟雪に苦労。みずほ基地に到着すると、気圧が低く（平均 730 hPa）作業をするにも息苦しくテキパキとは動けず。前次隊員の素早い働きぶりに驚く。夏の昭和基地に初めて降り立ったときには、砂埃とダンプカーが行き交う姿に、工事現場に連れてこられたような印象を受けた。



### 一番印象に残ったこと・一番楽しかったことはなんですか？

みずほ基地で4人で越冬中、周りに誰もいない真っ暗な中、オーロラを見て、その美しさ、壮大さに怖いような宇宙の神秘を感じた。みずほ基地に5往復、ドームふじ基地に1往復し、いつも、内陸のどこまでも何も無い白一色の雪原に感動した。併せて、雪上車のディーゼルエンジンの匂いには、懐かしさを感じるようになった。毎回の往復の観測船から見る海水と氷山、沿岸の山々の景色の美しさにも感動した。すばらしい景色を、ぜひ皆に見てもらいたい。地球物理、気象学を研究する者にとって一度は見て、味わってもらわなくてはならない。